

LGBTQ カップルの8割が住宅購入の際に「何かしらを妥協」を経験 LIFULL HOME'S「LGBTQ カップルの住まい購入の実態調査」実施 セクシャリティを理由に妥協したこと1位は「条件が最良ではない銀行を選択」

事業を通して社会課題解決に取り組む、株式会社 LIFULL（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：伊東祐司、東証プライム：2120）が運営する不動産・住宅情報サービス「LIFULL HOME'S（ライフフルホームズ）」は、LIFULL HOME'S では、LGBTQ の方をはじめ、住まい探しに困難を抱える「住宅弱者」に親身に住まい探しの相談に応じる不動産会社や物件を検索できるサービス「FRIENDLY DOOR」を運営しています。このたび、LGBTQ の方の住まい購入における実態を把握するため、パートナーとの住宅購入を経験・検討した266名を対象に「LGBTQ カップルの住まい購入に関する実態調査」を実施しました。その結果、回答者の約8割がセクシャリティを理由に希望条件や資金計画での妥協を余儀なくされている現状が浮き彫りになりました。本調査を受けて LIFULL HOME'S FRIENDLY DOOR は、LGBTQ の方々が理想の住まいを具体的に描き、実現へと踏み出せるための新たな機会の提供を順次展開していく予定です。



本調査のトピックス

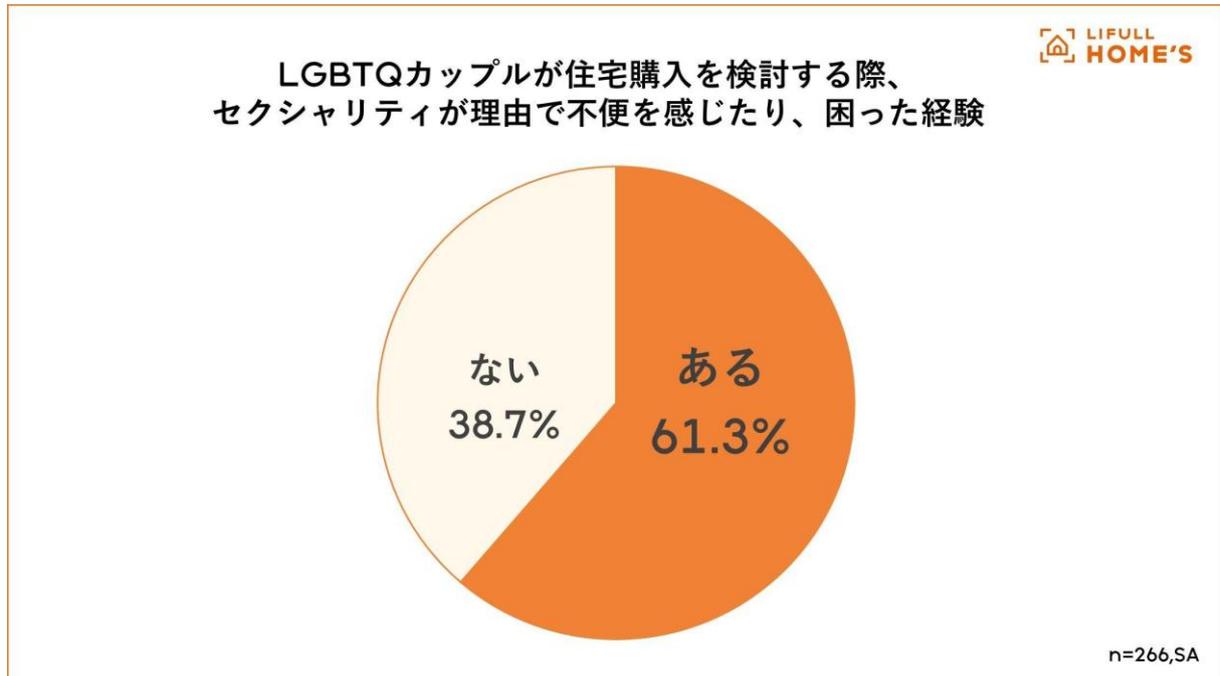
- 【1】LGBTQ カップルが住宅購入時に遭遇する[不便や困難]：6割が住宅購入検討で不便、困った経験あり
- 【2】LGBTQ カップルの住宅購入における[妥協]：8割以上が「セクシャリティに関する障壁がなければより良い物件を選択した」と回答
- 【3】LGBTQ カップルが住宅購入時に経験した[障壁]：3割が団信の選択肢が限られ最良ではない銀行で妥協、不動産会社でのカミングアウトも負担に
- 【4】LGBTQ カップルの[ローンの組み方]と[購入・検討物件]：「ペアローン」が最多、「新築一戸建て」を希望
- 【5】LGBTQ カップルが不動産会社に求めること：「特別な優遇」ではなく「理解とフラットな対応」

調査実施の背景：セクシャリティが理由で法的に狭まる「住まいの選択肢」

現在、パートナーシップ宣誓制度の導入が進む一方で、生活の基盤である「住まい」においては、法的な家族と認められないことによるローン審査や相続、保険加入などで制限を受けやすく、結果として希望する住まいを諦めざるを得ない現状にあります。本調査を通して、LGBTQ 当事者が抱える不安や住まい探しの現場の実態を明らかにします。

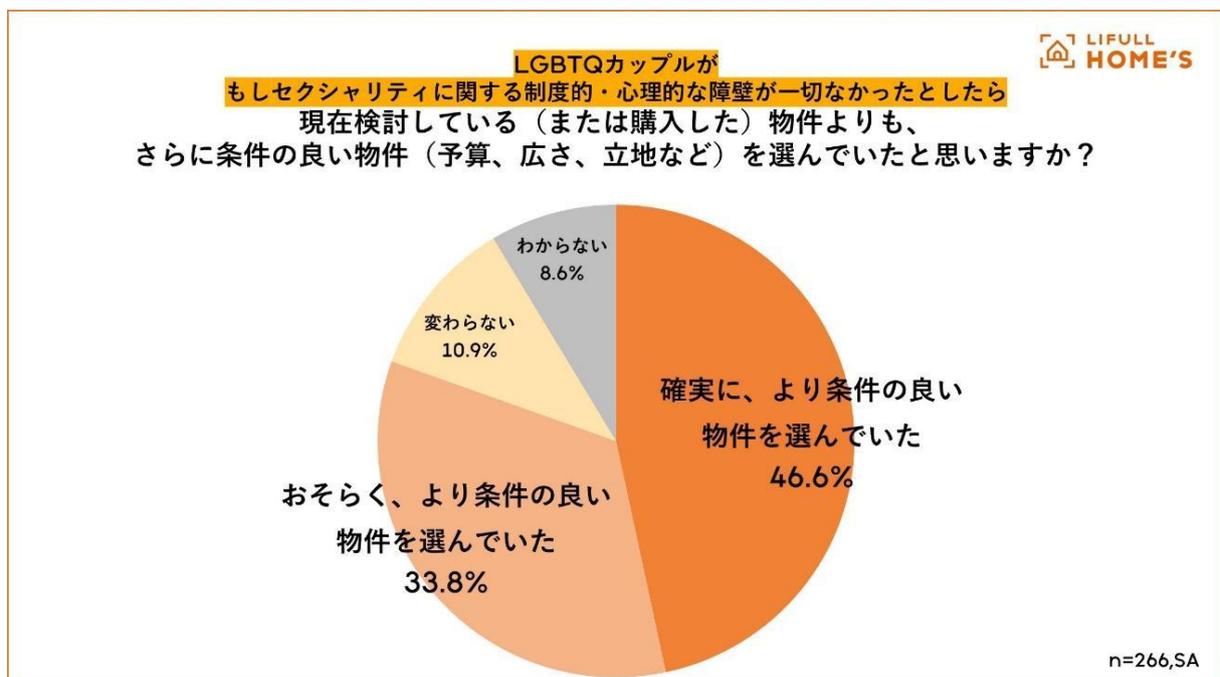
【1】 LGBTQ カップルが住宅購入時に遭遇する[不便や困難]：6割が住宅購入検討で不便、困った経験あり。3割が団信の選択肢が限られ銀行を妥協、不動産会社でのカミングアウトも負担に

LGBTQ カップルが住宅購入を検討する際に、自身のセクシャリティが理由で不便に感じたり、困ったりした経験があるかと聞いたところ、61.3%が「ある」と回答しました。



【2】 LGBTQ カップルの住宅購入における[妥協]：8割以上が「セクシャリティに関する障壁がなければより良い物件を選択」と回答

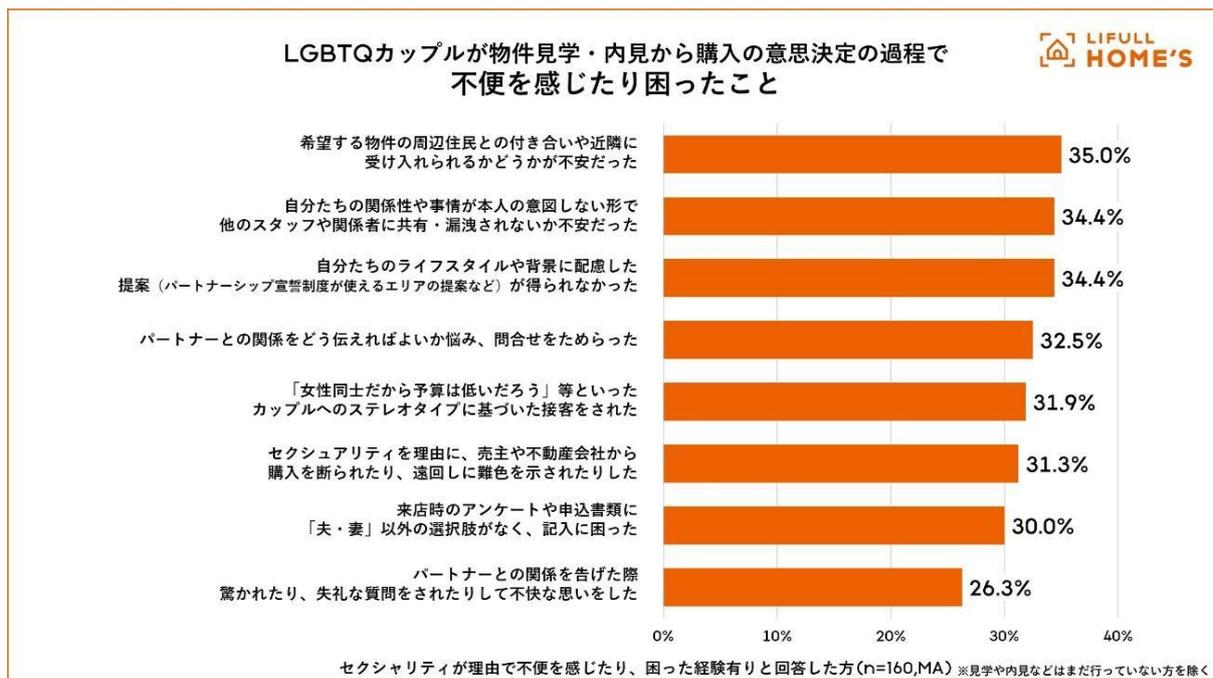
「もしセクシャリティに関する制度的・心理的な障壁がなければ、より条件の良い物件を選んでいただか」という聞いたところ、46.6%が「確実に選んでいた」、33.8%が「おそらく選んでいた」と回答しました。8割以上が、本来の希望よりも条件を下げて購入や検討していることが分かりました。



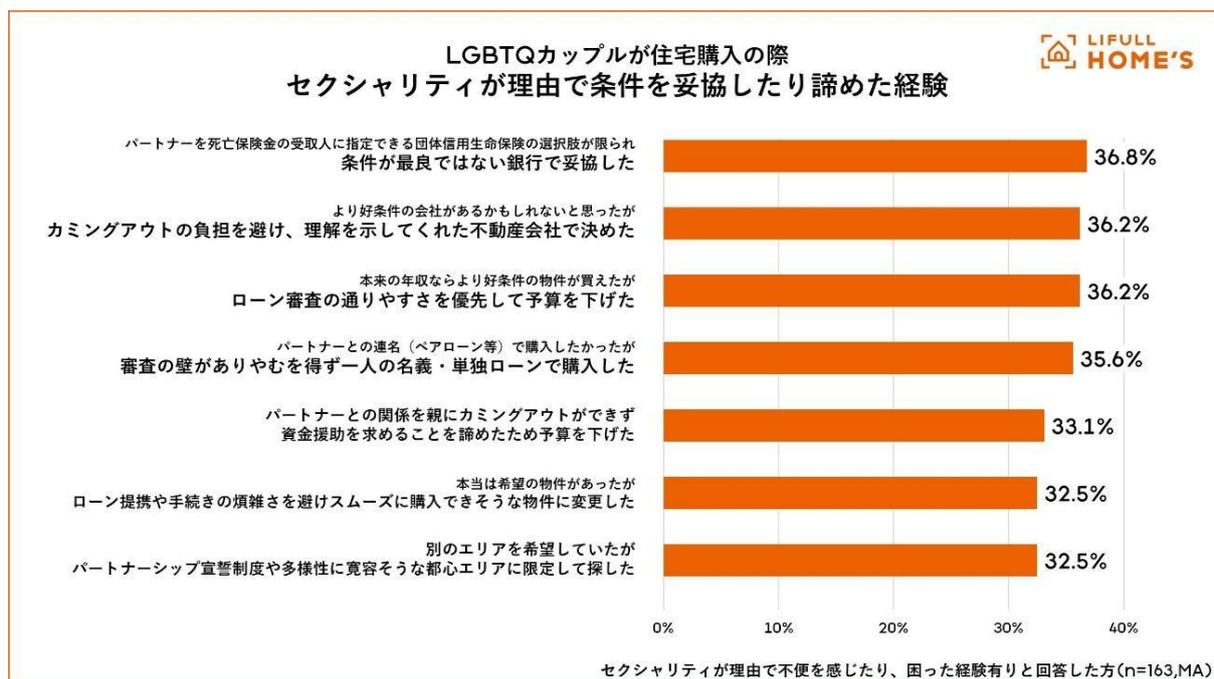
【3】LGBTQカップルが住宅購入時に経験した[障壁]：3割が団信の選択肢が限られ最良ではない銀行で妥協、不動産会社でのカミングアウトも負担に

LGBTQ カップルで住宅購入時に困った経験がある方に、物件見学・内見から購入の意思決定の過程で不便や困ったことについて聞いたところ、最多回答は「希望する物件の周辺住民との付き合いが不安（35.0%）」で、コミュニティに受け入れてもらえるかどうか、購入の意思決定に影響を与えています。この他には、「自分たちの関係性が意図しない形で共有・漏洩されないか不安（34.4%）」や「パートナーとの関係の伝え方を悩み、問合せをためらった（32.5%）」など不動産会社や物件オーナーに対する不安も抱えています。

実際の対応を受けた際に「『女性同士だから予算は低だろう』等のカップルへのステレオタイプに基づいた接客をされた（32.5%）」や「セクシャリティを理由に、売主や不動産会社から購入を断られたり、遠回しに難色を示されたりした（31.3%）」など、不快な経験をした当事者もいました。



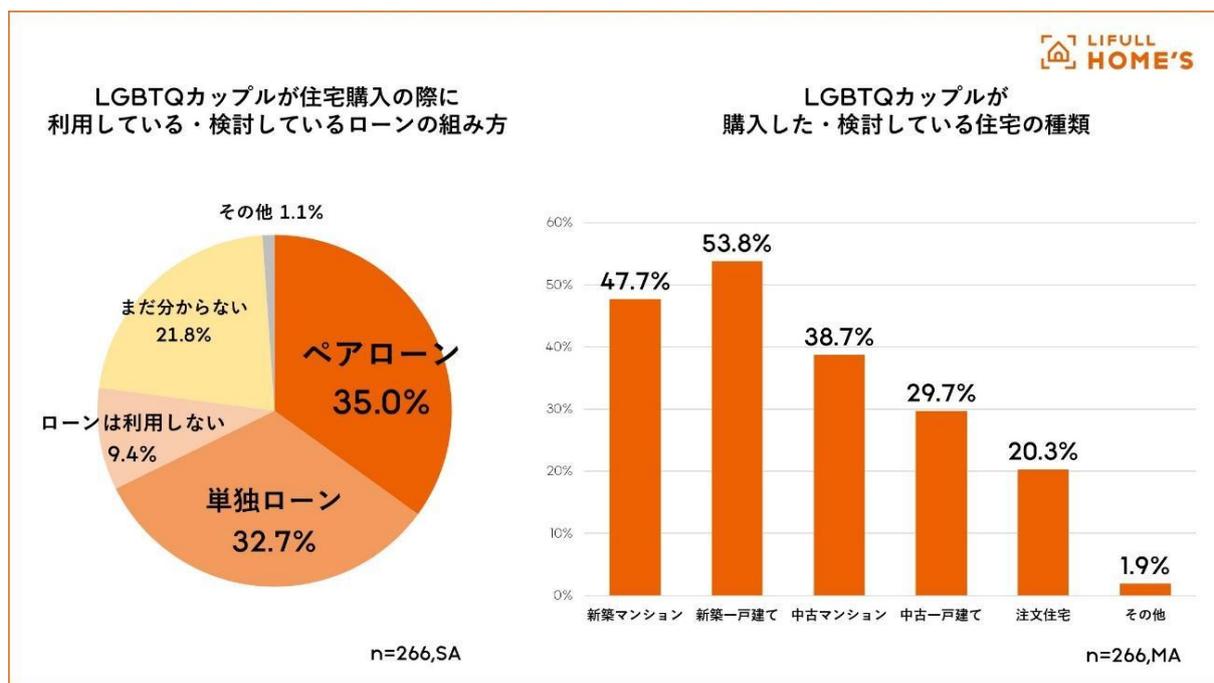
LGBTQ カップルで住宅購入時に困った経験がある方に住宅購入の際に、セクシャリティが理由で条件を妥協、諦めた経験について聞いたところ、最も多い回答は「パートナーを死亡保険金の受取人に指定できる団体信用生命保険の選択肢が限られ、条件が最良ではない銀行で妥協した（36.8%）」でした。



他の回答では「より好条件の会社があるかもしれないと思ったが、カミングアウトの負担を避け、理解を示してくれた不動産会社で決めた」「ローン審査の通りやすさを優先して予算を下げた（36.2%）」が続きます。この他にも、「パートナーとの連名で購入したかったが審査の壁があり、一人の名義・単独ローンで購入した」のようにローン審査や制度面のハードルや煩雑さを避けた選択しています。また、「親にカミングアウトできず資金援助を諦めた（33.1%）」や「パートナーシップ宣誓制度や多様性に寛容そうな都心エリアに限定して探した（32.5%）」といった回答もあり、当事者特有の切実な葛藤や心理的なハードルが住むエリアの選択肢を狭めている実態が分かりました。

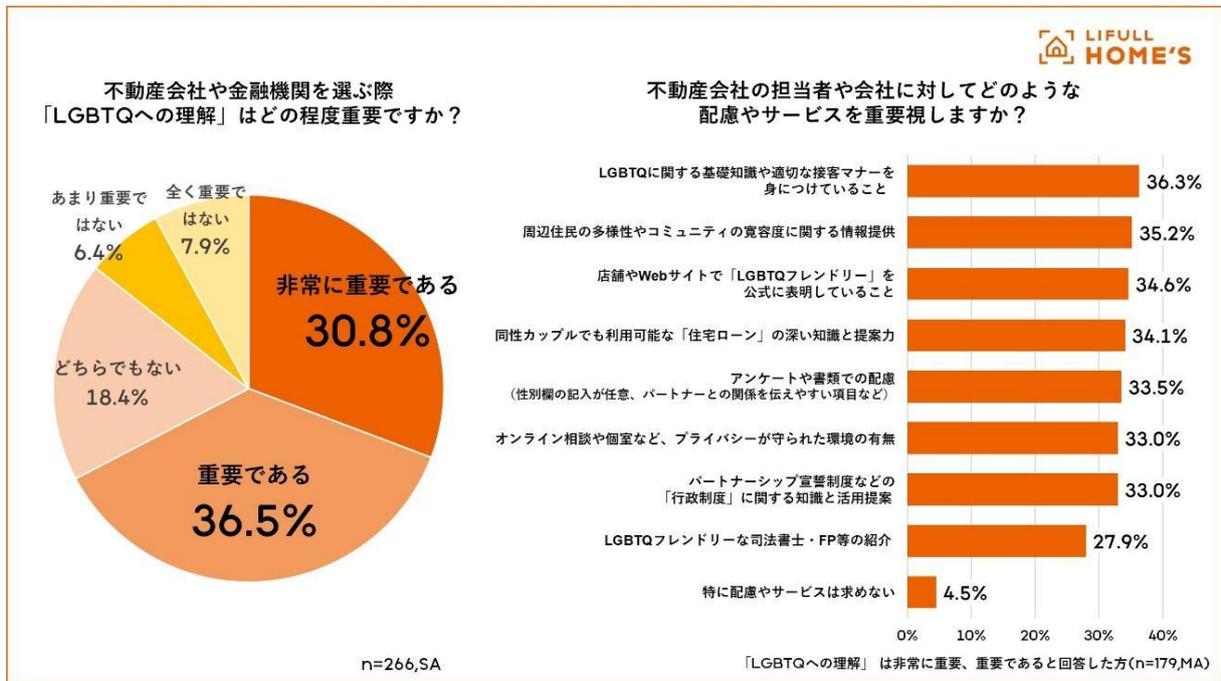
【4】LGBTQ カップルの[ローンの組み方]と[購入・検討物件]：「ペアローン」が最多、「新築一戸建て」を希望

LGBTQ カップルが住宅購入に利用、または検討しているローンの組み方の最多回答は「ペアローン（35.0%）」で「単独ローン（32.7%）」を上回りました。LGBTQ カップルは、単独名義だと名義人が亡くなった際、その親族に不動産が相続されてしまい、残されたパートナーが家を追い出されるリスクがあります。ペアローンは「共有名義」にでき、それぞれが団体信用生命保険（団信）に加入可能で、万が一どちらかが亡くなった場合にもその人のローン残高は保険で完済される点がメリットです。さらに公正証書遺言とセットで準備することで、残されたパートナーの住居と生活を強力に守る防衛策になります。LGBTQ カップルが購入した・検討している住宅の種類は「新築一戸建て（53.8%）」が最多で、「新築マンション（47.7%）」「中古マンション（38.7%）」「中古一戸建て（29.7%）」「注文住宅（20.3%）」という結果です。



【5】LGBTQ カップルが不動産会社に求めること：「特別な優遇」ではなく「理解とフラットな対応」

不動産会社や金融機関を選ぶ際に「LGBTQ への理解」については 67.3%が「重要である」（合計：「非常に重要である」30.8%、「重要である」36.5%）と回答しました。「重要である」と回答した方に、不動産会社や担当者に求めることは、「基礎知識や適切な接客マナー（36.3%）」や「周辺住民の多様性や、コミュニティの寛容度の情報提供（35.2%）」、「店頭やサイトでのLGBTQフレンドリーの表明（34.6%）」など、特別なサービス以上に、安心して相談できる環境整備が上位に挙がっています。住宅ローンや行政制度の知識や提案、LGBTQフレンドリーな行政書士・ファイナンシャルプランナーの紹介など具体的な事務手続きに関する回答も挙がりました。

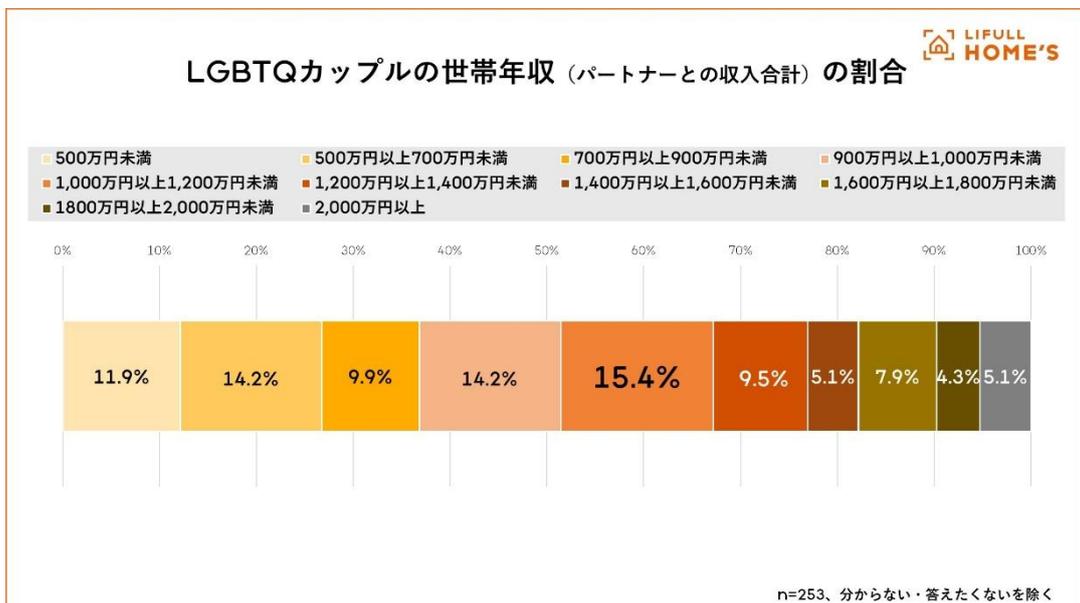


【企画者 LIFULL HOME'S FRIENDLY DOOR 事業部 梶川美久里のコメント】

今回の調査では、LGBTQ 当事者の住宅購入への高い意欲と、それに反する“機会損失”の存在が明らかになりました。LGBTQ カップルの世帯年収で最も多い回答は「1,000 万円以上 1,200 万円未満」でした。厚生労働省の調査※では、世帯の平均所得金額は 536 万円であることから 7 割以上の LGBTQ カップルは経済的な基盤を持っていることがうかがえます。これは二人ともがフルタイム勤務であることや本調査の対象が首都圏在住のため賃金水準が高いことから高年収世帯の割合を押し上げている要因と考えられます。

一方で、約 8 割が「本来ならより良い物件を選べたはず」と回答しました。首都圏ではペアローンが一般化する中、当事者も同様に利用・希望しています。しかし、手続きの過程で関係性を開示することへのストレスや、自分たちに合った情報にたどり着けない不安が、選択肢を狭めています。制度上は可能でも、「安心して選べる状態」にはなっていないのが現実です。マイホームの購入は、人生の未来を描く大切な機会です。だからこそ、消去法ではなく、納得して選べる環境を整えることが必要です。今回の調査は、一人ひとりに最適化された情報提供と支援体制の整備こそが、誰もが自分らしい暮らしを諦めない社会につながることを示しています。

※ 国民生活基礎調査の概況



【調査概要】

調査対象：首都圏（1都3県）に在住する20代～50代のLGBTQ当事者（パートナーと共同での住宅購入検討者・経験者）／ゲイ（男性を好きになる男性）、レズビアン（女性を好きになる女性）、トランスジェンダー、ノンバイナリー／Xジェンダー（男女どちらにも当てはまらないなど）、バイセクシュアル（両性を好きになる）、パンセクシュアル（相手の性別を問わず好きになる）

調査期間：2026年1月30日～2026年2月6日

調査方法：インターネット調査

有効回答数：266名

LIFULL HOME'S「FRIENDLY DOOR」におけるこれまでの「LGBTQ」対応について

2019年11月 [FRIENDLY DOORのサービス提供開始](#)

2021年2月 [国内不動産ポータルサイト初「LIFULL HOME'S住まいの窓口」が『LGBTQの方向けマイホーム講座・個別相談』を提供開始](#)

2021年4月 [不動産業界初、不動産会社向け『LGBTQ接客チェックリスト』を提供開始](#)

LIFULL HOME'S「FRIENDLY DOOR」について (URL: <https://actionforall.homes.co.jp/friendlydoor>)

高齢者、外国籍、LGBTQ、生活保護利用者、シングルマザー・ファザー、被災者、障害者、家族に頼れない若者、フリーランスなど、さまざまなバックグラウンドで住まい探しに困難を抱える方々に対し、親身になって住まい探しの相談に応じる不動産会社を検索できるサービスです。全国6,800以上の賛同店舗を掲載しています。

(2026年2月時点)

LIFULL HOME'Sについて (<https://www.homes.co.jp/>)

LIFULL HOME'Sは、「叶えたい！が見えてくる。」をコンセプトに掲げる不動産・住宅情報サービスです。賃貸、一戸建て・マンションの購入、注文住宅から住まいの売却まで。物件や住まい探しに役立つ情報を、一人ひとりに寄り添い最適な形で提供することで、本当に叶えたい希望に気づき、新たな暮らしの可能性を広げるお手伝いをします。



日本最大級の不動産・住宅情報サービス「[LIFULL HOME'S \(ライフフル ホームズ\)](#)」

賃貸のお部屋探し・賃貸住宅情報なら「[LIFULL HOME'S](#)」

マンションの購入・物件情報の検索なら「[LIFULL HOME'S](#)」

一戸建て[一軒家]の購入・物件情報の検索なら「[LIFULL HOME'S](#)」

注文住宅の施工会社・住宅カタログを探すなら「[LIFULL HOME'S 注文住宅](#)」

不動産売却にはまず査定依頼から「[LIFULL HOME'S 不動産査定](#)」

マンション売却の一括査定なら「[LIFULL HOME'S マンション売却](#)」

不動産投資・収益物件を検索するなら「[LIFULL HOME'S 不動産投資](#)」

理想の住まい選び・家づくりをアドバイザーに無料相談「[LIFULL HOME'S 住まいの窓口](#)」

株式会社 LIFULL について (<https://lifull.com/>)

LIFULLは「あらゆるLIFEを、FULLに。」をコーポレートメッセージに掲げ、個人が抱える課題から、その先にある世の中の課題まで、安心と喜びをさまたげる社会課題を、事業を通して解決していくことを目指すソーシャルエンタープライズです。現在はグループとして、不動産・住宅情報サービス「LIFULL HOME'S」、シニアの暮らしに寄り添う「LIFULL 介護」、不動産投資と収益物件の情報サイト「健美家（けんびや）」などの事業展開を行っています。